

PE Kaplan, AJ Szumski 編

1986 YEAR BOOK OF REHABILITATION

千野直一 (慶応義塾大学)

今回、YEAR BOOK MEDICAL PUBLISHERS 社より“リハビリテーション医学編”が出されました。御承知のように、主だった臨床各科には YEAR BOOK SERIES として、その年の関連学術雑誌から興味ある論文が要約されて出版されていました。しかし、リハビリテーションに関する YEAR BOOK について私は医学部を卒業してから一度もおめにかかった記憶がありません。というのも、本書の序を読んで解ったことですが、“リハビリテーション”編は 1938 年から 1951 年まで出版されて中断し、久し振りに出されたもので、まさに“rebirth”というべきものだったからです。

編者はリハビリテーション専門医の PE Kaplan と理学療法士で Ph D の学位をもつ AJ Szumski の二人で、ともに今、アメリカのリハビリテーション医学会で最も活躍しているベテランです。この二人を補佐するのが GE Molnar ほか医師二人、言語療法士、臨床心理士、ナース、エンジニア 1 人ずつの計五名があたっています。

このように、本書の内容は、編

者の顔ぶれからも分かるように、リハビリテーション医療全体を網羅するもので、以下の 10 の項目に別れております。すなわち、1. Exercise, 2. Clinical Rehabilitation, 3. Assessment, 4. Bioengineering, 5. Devices, 6. Prosthetics and Orthotics, 7. Diagnosis, 8. Cognitive-Communicative Rehabilitation, 9. Pain, 10. Pharmacology です。

そして、具体的に本書がどのような構成をとっているかといいますと、1985 年度に英文で書かれたリハビリテーション関連医学雑誌 90 種 (残念ながら日本からののはゼロです)。より興味ある文献 225 項を選び、それぞれの内容を簡単に、といっても、いわゆる summary よりも詳しく、実験方法などもわかるぐらいにまとめたものです。さらに、一部の文献には編者のコメントがつけくわえられています。

とりあげられた文献の中には私共の医局の抄読会ですでに検討されたものも見られますが、これらは当然のことながら、学会誌など権威のある雑誌から採用されたも

のです。一方、わざわざ、載せるほどの価値のないものも少なからずみられますが、これは編者の主観的な判断もあり致し方ないといえましょう。

本書にみられる文献のすべてが 2 年前 1985 年のものということ、また、内容的にも全部が優れたものとは限らないことなどを考えますと、本書は隅からすみまで熟読玩味するものというより、さらっと目をとおして世界のリハビリテーションの動向を知る為のものとしてはまことに最適のものといえましょう。また、リハビリテーションのなかで、医学のみならず、看護、PT、OT、言語、心理、ケースワーク、義肢装具、医用工学などの文献リストをみるだけでも得るところは大きいといえます。

このような観点から、本書を医師のみならず、他のリハビリテーション医療専門職の方々にも一読する価値のあるものとして薦めたいと思います。

(A 5, 306 頁, 1986, ¥10,380,
取扱店: 南江堂, 医学書院)